

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075200222		
法人名	有限会社 ユーコ商事		
事業所名	グループホーム きもりの家 2丁目		
所在地	〒811-4312 福岡県遠賀郡遠賀町大字浅木575番地	Tel 093-293-7303	
自己評価作成日	平成 23年10月19日	評価結果確定日	平成23年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	平成 23年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは、運営理念に掲げている「心身のやすらぎが提供できる」ホームづくりを常に目標とし、日頃より医療機関との連携に力を入れて、看護師指導による健康管理を実践、病状が急変しても敏速に対応できる体制づくりを行っています。また、入居者様を個々に捉え、出来る限り楽しみややりがいを持った生活が送って頂けるような援助を心掛けています。開所して7年が過ぎ、様々な事例をスタッフと共に検討していく中で、医療の知識があつてこそ心や体に病気を抱えていても安心して暮らすことができる介護が出来るものだと考えおりますので、今後もより良いサービスが提供できるよう努力して行きたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う <input type="radio"/>
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う <input type="radio"/>
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に「地域との交流、医療との連携」と含めた内容を掲げ、常に理念を意識した考え方を職員間で共有できるようコミュニケーションを図りながら日々の業務に取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	参加可能な行事については出来るだけ参加を心がけ関わりが持てるように努めています。日頃は近隣への散歩や庭作業時の挨拶など意識して日常的なお付き合いが出来るよう努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで地域や行政の方々とお話しする機会を活かして発信していますが、現状では具体的な取り組みは行えていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に会議を実施し、様々な意見交換を行いながらサービスの向上に活かすようにしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加していただき、定期的な情報もしくは意見の交換を行うようにしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを設置し、拘束行為は原則として禁止、止む無く使用する必要性があればご家族を含め十分な検討と話し合いをもって対応するようにしています。施錠に関しても自宅としての考え方で常識とされる範囲での鍵を利用しながら安全管理に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを職員がいつでも見れるよう設置し、どのような事が虐待となりえるか日頃のケアの中で指導や意見交換を行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを設置し、社内研修会を1度実施し以後は機会あるごとに説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、契約時には書面を用いて十分な説明を行い、質問に対しては不明な点をクリアにするような対応に努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、職員にわからないよう書きやすい環境を作っています。また、ご家族には定期的に満足度のアンケート調査を実施、年3回の家族会では直接意見の交換を行っています。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を実施。また、毎日のミーティングの中でも積極的に意見交換を行い業務改善につなげるように努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課を行い、スタッフ自身でも自己評価を実施し、向上意欲と行動力に繋がるようサポートをしています。職場環境等の整備にもスタッフの意見を考慮しながら行っています。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関しては必要な資格の保持以外には特に条件提示はしていません。人柄・意欲を重視した面接をさせて頂いています。また就労者に対しても個々の事情に配慮しながら十分に対応していると思います。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の接遇に反映できるよう機会あるごとに指導を行うようにしています。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内勉強会を定期的に行い、またその勉強会に活かせるような内容の外部研修への参加の促しや、個人参加の研修会情報の発信を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護事業者連絡協議会主催の勉強会への参加や施設間の交流を行いサービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を原則として行うようにしています。また、入居の初期段階では利用者も不安や要望がわかり辛い状況なので、こまめな会話や傾聴に努め、話しやすい環境を整えるようにしています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談、契約時面談、入居後の関わりと いうように段階を踏んでお話ができる時間を十分にとり柔軟な対応ができるよう努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時点ではまず現状がどのような状況であるか確認し、ホームの利用が可能であれば入居申込みを進めています。対象外である場合は他の利用可能なサービスを説明し希望があれば紹介など行っています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、出来ること出来ないことなど入居者の適正を見極めながら生活者同士として関係作りを行うようにしています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な事でもご家族との会話の機会や関わりを持っていただけるような環境づくりに努めています。また、月に一度ホーム通信を発行し、入居者の生活状況などを随時報告・相談するようにしています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	必要時にご家族と話し合い、個々のケースに合わせた対応が行えるよう支援しています。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の過ごし方や家事活動・レク活動・食事 中の会話など注意深く観察し、馴染みの関係作りが行えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個々のケースに合わせた相談や支援を行うように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者を中心に本人の希望・意向を会話の中から見出し把握できるように努めている。本人から困難な場合はご家族等からお話を聞き把握に努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の段階でご本人、ご家族から情報収集を行い、入居後も不足している情報を適時収集するよう努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族の希望や意向を取り入れ、また残存機能を最大限維持できるような援助を行い、現状の把握に努めています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、担当スタッフ間で適宜話し合い、意見を尊重しながら介護計画を作成しています。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録や健康管理表等の個別記録を毎日行い、スタッフ間で情報を共有し、介護計画の実践を踏まえて見直しなどに活かしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のケースやニーズに応じて柔軟な対応を行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の学校・保育園、地域の方々、行政機関の協力を得ながら、個々の状況に合わせて支援しています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ病院と連携を図り、ホームで対応できる内容の受診は支援を行い、個々の病状把握にも努めている。遠方の受診や検査など医師とご家族との話が必要な受診に関してはご家族へ受診依頼をしています。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で知り得た入居者の情報は管理者への報告とスタッフ間の情報共有を密にし、協力医療機関と連携を図り適切な対応が受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に心がけながら入院先へ働きかけを行い、互いの情報交換を行うようにしています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の悪化に伴うホームでの対応可能な内容については契約時に説明を行い、実際に生じた場合は利用者様、ご家族様、主治医と今後の対応について検討し利用者にとって一番良いと思われる対応が行えるようにしている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の初期対応は出来ていますが、定期的な訓練や研修は実施できていません。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練、消化訓練を行い、地域の方には緊急連絡網にも参加していただいている。訓練の際には、地域の方の参加をいただくこともあるので、今後も継続して実施していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシーを常に意識し、対応時の言葉遣い、声の大きさ、周囲の状況などに配慮しながら対応しています。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人との関わりを持ち、可能な限り自己決定が出来るように働きかけや対応を行っています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の言葉に耳を傾け、個々の状況に合わせてできる限り希望に副えるような心がけにつとめています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際には入居者と一緒に衣服を選び、普段から身だしなみや髪の流れが無いように意識して対応するようにしています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合った準備や片付けなどの作業や食事を入居者同士やスタッフで行い、会話や雰囲気を楽しんでいただけるような支援をするようにしています。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事・水分量を記録し、食事や水分が摂りづらい場合は状態に合ったものを調整や検討して適切な量の摂取が行えるよう対応しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の口腔内の状態を把握し、それらに応じた口腔ケアを食後に行うようにしています。また、週に一度、歯科医による口腔衛生指導を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立排泄の能力維持を優先に考え、個々の状況に応じた支援を行っています。自室にトイレを整備して他人を気にすることなく排泄が出来るようにしています。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	細かな観察をして病状や体調把握に努めています。主治医との連携を図りながら個々に合わせ薬の調整などの対応もしています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望は可能な限り取り入れて対応していますが、人員不足と身体介護が重度化している方も増え、実施曜日や時間帯については満足いただけるような十分な対応はできていないと思います。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のリズムや習慣に合わせて休息、安眠が出来るよう支援しています。薬が必要な方は主治医と連携を取りながら最小限の使用で済むように支援しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自で把握し易いように資料や専門書を閲覧しやすいところに配置しています。普段から薬について申し送り等で情報交換を行っています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日は難しいですが、行事活動や個々に合った家事活動等を通じて楽しく生活できるように支援しています。又、ご家族の協力の下、病状に害のない程度に嗜好品も提供しています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な範囲で対応していますが人員不足や身体介護の重度化もあり、全員が満足できる支援は充分にはできていないと思います。気候の良いときはご家族にも声をかけドライブ外食等を計画し実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に応じた金銭管理や買い物の支援を行っています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングには公衆電話を設置し、携帯電話を利用している入居者には充電等の必要な援助を行っています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光をできるだけ取り入れ、静かで落ち着いた空間作りを心がけています。湿温度の変化に合わせて室温調整を小まめに行っています。季節の草花を飾ったり、廊下の掲示板には季節感のあるものを製作して飾るようにしています。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはベンチ、テレビ付近にはソファや畳など設置して個々に好きな場所でくつろげる様になっています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や必要であれば仏壇等も置いて頂き、ご本人が落ち着いて過ごせる部屋作りをして頂いています。身体能力の低下による配置換えは必ずご家族と相談して行っています。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人・共有スペース共に個々に合った環境づくりに努めています。安全面では転倒予防を意識した物品や家具の配置、居室や浴室など入居者が生活上必要な場所には掲示プレートを貼り出し自身で移動しやすいようにしています。		